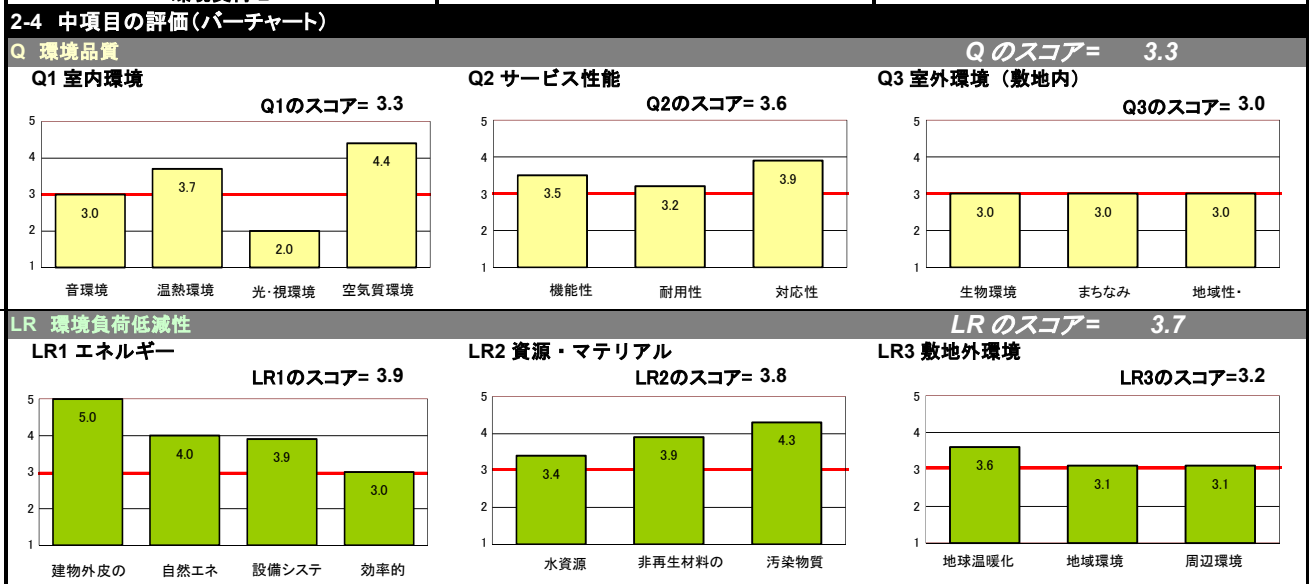
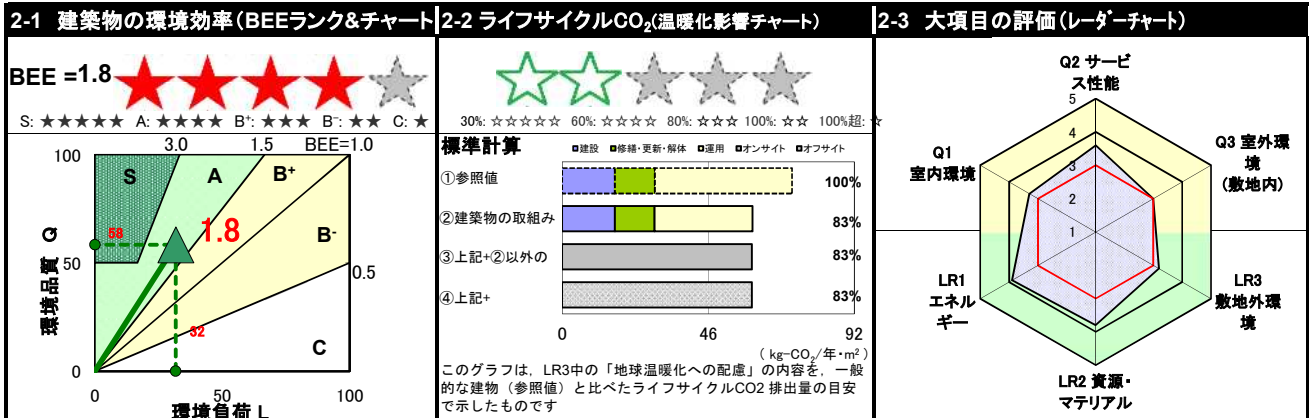


CASBEE® 京都-新築

標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-新築(新築)2018年版 使用評価ソフト: CASBEE-京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ローム株式会社 J地区 新事務棟	階数	地上6F
建設地	京都府京都市右京区西院溝崎町12-1番地 他	構造	S造
用途地域	工業地域, 準防火地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2019年8月1日
敷地面積	2,329.44 m ²	作成者	清水建設株式会社
建築面積	1,107.29 m ²	確認日	
延床面積	6,698.97 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項		
総合 働く人への快適な空間を提供するとともに、高効率な空調システムを導入することで一次エネルギー消費量が抑えられた環境にも配慮した建物計画としている。		その他 周辺のまちなみに配慮し工場と同等な機能を持つ施設も、シャープなオフィスビルに見えるような外観デザインとしている。
Q1 室内環境 内装材にはF☆☆☆☆つVOC適合の建材を採用、ゾーニングや空調温度が均一となるような空調方式・制御で室内空間の快適性向上を図る。	Q2 サービス性能 設備の更新がフレキシブルに対応できるよう将来スペースの確保、システム天井やOAフロアを採用し建物の長寿命化を見越した設計である。	Q3 室外環境(敷地内) 設備機器・排気口を屋上に設置し、高い位置で排熱を行うことで温熱環境の緩和に努める。シンボルツリーとなる樹木を配置し、地域のアメニティ向上に貢献する。
LR1 エネルギー 適切な断熱を施し外皮の熱負荷抑制に努め、高効率な空調システムにより環境負荷抑制を図る。ナイトバージ換気システムや明るさセンサーでの照明制御による、自然エネルギーの利用を積極的に行う。	LR2 資源・マテリアル 高強度の構造設計により材料使用量の削減に努める。リサイクル材や再利用可能な部材の積極的な採用により省資源化に配慮している。	LR3 敷地外環境 隣地に適切な量の駐車場を設け、周辺の渋滞の緩和に配慮している。燃焼機器を使用せず大気汚染防止に努めるとともに、建物から排出されるCO₂を抑制し、地球温暖化対策に配慮している建物である。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される